

日本近代文学館

公益財団法人
日本近代文学館

一日 次一

〔駒場ノート〕
高校生に文学への
関心を
坂上 弘

〔GHQの事前検閲
―蔵書の中から―〕
春日真木子
〔市場・道徳・秩序〕
荻部 直

◇漱石・芥川・太宰から現代作家まで
―近代文学、再発見！― 安藤 宏

〔古書店と目録〕
盛林堂書房
本を作るということ
小野 純一

〔文庫・記念館〕
生誕一五〇周年
南方熊楠顕彰館
〔駒場の四季〕
資料紹介 佐佐木信綱宛書簡
曾我部大剛

〔河井醉者・川路柳虹ほか〕

夏恒例の当館の活動が、いっそう
若い世代の文学への関心を育む内容
になってきた。

まず五十年以上続く読売新聞社後
援の「夏の文学教室」では、先生の
すずめで十代の聴き手が増え、例え
ば高校の「日本近代文学」という選
択授業で文豪への興味を持って参
加。先生方からも現役作家の講演い
ら、こんなふうには授業をしてみたい
ものだ、と生徒

を引き込むヒン
トを得たという
声もきかれる。

次にこの夏か
らの試みで、企
画展「教科書のなかの文学／教室の
そとの文学―芥川龍之介「羅生門」
とその時代」が開かれた。芥川の
「羅生門」は今やどの高校生用国語
教科書にものっている。そこでこの
「羅生門」を徹底的に解剖する展示
とした。これは大きな反響をよび、
アンケート回答も多かった。「とて
も勉強になりました。奈良県在住で
すがまた来たいです」〔鑑賞ワーク

シートがあり、より展示についての
理解が深まった〕そして引率する先
生だろうか、「作品が生まれる背景
や日本の近代小説が成立する流れが
よくわかった。学生にも両者を同時
に知ってもらえた」と語っている。
またこの企画展と相俟って、特別
セミナーも開催した。対象は教員に
絞られた。講師の安藤宏理事は「こ
の文学館と国語教育の現場の橋渡し
をしたい。現代

文学の資料の宝
庫である当館と
しては、高校生
にも第一次資料
への共感をもつ

てほしい。国語教育の現場と手を結
んで行きたい」と先生方に提案。ま
たもう一人の講師の中島国彦専務理
事は「展覧会で教科書の中の小説が
これだけ大事に扱われていることに
感銘を受ける。芥川がほめられた漱
石からの一通の手紙が展示してある
が、このように言葉が若者の夢を育
てることも伝えたい」と教育の真の
主役に伝えておられた。（館理事長）

秋の特別展「漱石・芥川・
太宰から現代作家まで
―近代文学、再発見！―」
館展示ホールでは、九月二十
三日（土）から十一月二十五日
（土）まで、開館五十周年記念
展「漱石・芥川・太宰から現代
作家まで―近代文学、再発見！―
を開催する（編集委員 安藤宏）
二〇一三年以降当館に寄贈いた
だいた資料の中から、初公開資
料を含めた選りすぐりの逸品を
紹介する。二葉亭四迷、夏目漱
石といった明治を代表する文豪
から、近年の芥川賞・直木賞受
賞原稿まで、多彩な文学者の原
稿、書簡、日記、写真、遺愛の
品など六十点を余を展覧する。
（四一五面に紹介記事）。

高校生に文学 への関心を ―の― 坂上 弘

文学館演習終了
第二十一回「文学館演習―日
本近代文学資料の探索と処理」
が八月二十二日から二十六日ま
で館ホールで開かれ、二十九の
大学からの大学生・大学院生を
はじめ、教員、文学館・図書
館職員など四十一名が受講し
た。

文学教室、好評で終了
第五十四回「夏の文学教室」
が七月三十一日から八月五日ま
で、館主催、読売新聞社後援、
小学館協力により有楽町よみう
りホールで開かれた。今年には
「大正という時間―文学から読
む」をテーマに十八氏が講演、
六日間で三千八百九十四人が受
講した。高校生の参加も七十六
名と過去最多となり、会場は熱
気に包まれ、好評を収めた。

文学館紹介 佐佐木信綱宛書簡
曾我部大剛

は九月十六日（土）で終了す
る。開催期間が学校の夏休みと
重なったこともあり、親子や学
生グループで観覧する姿が多く
見られた。八月十一日には編集
委員の庄司達也氏の解説により
芥川が愛した音楽をSPレコー
ドで楽しむ催しが催され、盛況の
うちに終了した。アンケートで
は、教科書で出会う他の作家・
作品の展覧会を期待する声も寄
せられている。

講座 資料は語る《後期》
10月21日（土） 14～15時半
フイチンさんの引き揚げ体験ス
ケッチ―上田としこから佐多稲
子へ 久米依子
11月18日（土） 14～15時半
作家の年賀状―日本近代文学館
コレクションから 宗像和重
受講料 二一〇〇円
*申込は希望回を明記のうえ参
加料を「資料は語る」係へ

また、川端康成記念室では
「川端文学の名作I」展を同時
開催する。「伊豆の踊子」「浅草
紅団」「禽獣」など初期の名作
をとりあげ、執筆の背景や同時
代作家との交流を紹介、川端文
学の出発を彩った作品の魅力に
せまる（八面「駒場の四季」参照）。

芥川「羅生門」展終了
夏季企画展「教科書のなかの
文学／教室のそとの文学―芥川
龍之介「羅生門」とその時代」

第91回 声のライブラリー
日時 11月11日（土） 14～16時
会場 日本近代文学館 講堂
朗読 高橋睦郎（詩人）
恩田侑布子（俳人）
伊藤比呂美（詩人）
参加料 二一〇〇円
*申込は参加料を「声のライブ
ラリー」係へ

秋の特別展「漱石・芥川・
太宰から現代作家まで
―近代文学、再発見！―」
館展示ホールでは、九月二十
三日（土）から十一月二十五日
（土）まで、開館五十周年記念
展「漱石・芥川・太宰から現代
作家まで―近代文学、再発見！―
を開催する（編集委員 安藤宏）
二〇一三年以降当館に寄贈いた
だいた資料の中から、初公開資
料を含めた選りすぐりの逸品を
紹介する。二葉亭四迷、夏目漱
石といった明治を代表する文豪
から、近年の芥川賞・直木賞受
賞原稿まで、多彩な文学者の原
稿、書簡、日記、写真、遺愛の
品など六十点を余を展覧する。
（四一五面に紹介記事）。

文学教室、好評で終了
第五十四回「夏の文学教室」
が七月三十一日から八月五日ま
で、館主催、読売新聞社後援、
小学館協力により有楽町よみう
りホールで開かれた。今年には
「大正という時間―文学から読
む」をテーマに十八氏が講演、
六日間で三千八百九十四人が受
講した。高校生の参加も七十六
名と過去最多となり、会場は熱
気に包まれ、好評を収めた。

文学館演習終了
第二十一回「文学館演習―日
本近代文学資料の探索と処理」
が八月二十二日から二十六日ま
で館ホールで開かれ、二十九の
大学からの大学生・大学院生を
はじめ、教員、文学館・図書
館職員など四十一名が受講し
た。

第91回 声のライブラリー
日時 11月11日（土） 14～16時
会場 日本近代文学館 講堂
朗読 高橋睦郎（詩人）
恩田侑布子（俳人）
伊藤比呂美（詩人）
参加料 二一〇〇円
*申込は参加料を「声のライブ
ラリー」係へ